

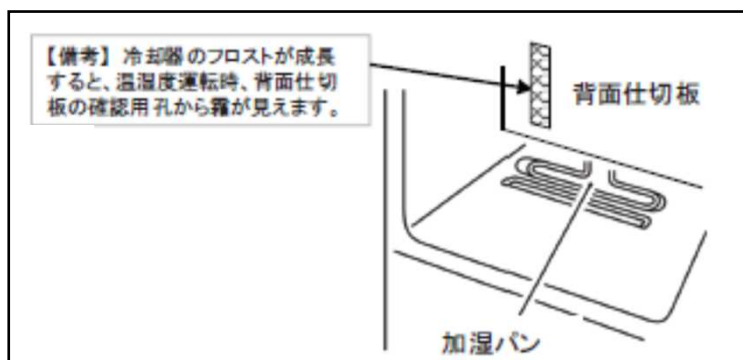
温度・湿度が降下しない時

試験槽内の冷却器が霜付（フロスト状態）の可能性があります。冷却器の霜付は以下の場合に多く発生します。

- 1) 低温運転時の扉の開閉、又は密閉不十分なケーブル孔による外気の侵入
- 2) 35℃以下の長時間連続温湿度運転(*1)

■フロスト確認方法

運転停止→電源OFF→扉を開けて背面仕切板の孔の中に見える霜付状況を目視確認



■デフロスト方法(*2)

- ① 試験槽内の供試品を取り出す。
- ② +66℃以上の温度を設定し運転を開始する。
- ③ 霜付の量と設定温度によりますが、水切り時間も含め、おおよそ1～2時間でデフロストが完了します。
- ④ 槽内の湿気を除去するため、デフロスト後は扉を開け、換気してください。
- ⑤ 確認用孔から霜付状況を確認し、まだ霜がついていれば、②③④を繰り返してください。

■それでも解決しない場合

- ・冷凍機フィルターの清掃をお試してください。
- ・周囲温度が40℃以上になっている可能性があります。周囲温度を確認して、必要に応じて設置場所を空調するか、または換気して下さい。
- ・槽内に設置している供試品の発熱量が大きすぎる可能性があります。発熱負荷を減らして下さい。

※上記方法でも改善されない場合は冷凍機の故障の可能性がありますので、弊社サービスまでご連絡ください。

*1：オプションでノンフロスト装置を付けている場合、35℃以下の温湿度運転でも一部ノンフロストで連続運転できる範囲が広がります。

*2：オプションでデフロスト装置を付けている場合、動作させることで短時間でデフロスト可能です。